

中学校の英語Ⅰは、中学校の1学年から3学年までの全学年を通じて420時間以上を履習したものであり、英語Ⅱはしからざるもので、これに属する標本数の割合は28.5、71.5である。英語Ⅰに属するものの28.5パーセントという割合が少ないのか、それとも多いのかは全国のその割合の比較なしではいえないことである。中間発表にはこれがみられなかったのであるが、一応参考までに示しておく。

調査結果の詳細は「昭和33年度全国学力調査」一昭和34年2月上旬配布一に発表した。

3. 教育広報

A 月報

広報の任務は教育委員会の方針、事実に関する知識や見解を広く一般教育関係者および県民に伝えることによって教育委員会行政の円滑な運営に寄与するにある。

すなわち県教育委員会の仕事を理解し、好意をもち、協力していただけるよう、活動を活発化させなければならない、

33年度をふりかえり広報活動の全般を述べることにする。

a 編集方針

33年度頭初において月報編集委員が任命され、次のような編集方針を確定した。

- (1) 教育にたいする正しい世論の育成
- (2) 教育関係者の研修
- (3) 親しまれる月報

b 刊行計画

- (1) 発行年10回、毎月1日

但し4・5月・2・3月は合併号

- (1) 規格 B5版 平均20頁
- (3) 発行部数 1,900部
- (4) 配布状況

区分	冊数	区分	冊数
小学校	553	県庁内	
中学校	369	文書広報課 統計課 財政事務局 県会事務局 記者クラブ 文部委員 福大図書館 文教文部省 全国都道府県 全編予警本部 計	
高等学校	69		2
盲学校	4		2
出張所	48		2
市町村長	122		12
市町村教育長	123		12
市町村教委長	121		7
公民館	243		46
県教育委員会	85		20
県立図書館	10		42
		2	1,900

c 内容

年間主要記事を一らん表にして次にかかげる。

項	目	発刊号
◇法令・管理に関する内容		
○教育委員会事務局組織		4・5
○研究学校一らん		6
○福島県産業教育審議会の建議		8
○県立種慶寮の利用について		4・5
○食中毒の予防		6
○本県における教職員結核の現況		7
○分校に関する調査		8
○不利益処分審査請求事案にかかる人事委員会の判定		12
○32年度長欠はどうなっているか		9
○34年度使用教科書採択状況報告		10
○公立義務諸学校の学級編制および教職員定数の標準化に関する法律・施行令・ならびに解説		10
○高校入学者選抜要項		1
○福島県学力調査実施要項		1
○33年度末人事異動方針		2・3
○福島県の文化財一らん		1・2・3
◇勤務評定に関する内容		
○勤務評定・勤務条件に関する質疑応答		4・5
○特集一勤務評定一		特集
○勤務評定に関する声明に答える		8
○勤評一評定要素の観察内容一		9
○勤務評定一県小中校長会よりの要望、県教組よりの公開質問状に対する回答一		9
◇研修・指導に関する内容		
○特集 算数・数学教育		12
○特集 理科教育		11
○話のしかた		4・5
○よみもの、こづかい、あそび		6
○理科実験講座について		8
○子どもがのびてゆく条件		10
○学歴からみた教員構成		1
○板書のかき方		1
○月報「アンケート」について		1・2・3
○3学期を迎えるの配慮		1
○「君が代」考		2・3
○道徳教育の方法上の着眼		2・3
○国語表記抄		2・3
○夏休みにおける児童生徒ののぞましい生活指導		7
○冬の児童生徒をどのように管理するか		1
○新しい運動会のあり方		9
○教育課程の改訂と道徳教育		10
◇研究発表		
○低学年における算数評価		4・5
○読書力を高めるには		6
○その歩みはのろいけれど一婦人団体活動一		6
○ホーム・ルーム活動の基礎となるもの		6
○白鳩学級実践の一端		6
○6人の教師が語る一図工教室一		6
○給食の献立		7
○精薄学級の教育		8
○本県の学習環境		8
○読みの指導をどうしたらよいか		9
○学級集団を育てるために一仲間づくりへの反省一		9
○考える子どもの育成をめざして		10
○家庭学習(宿題)をどうしたらよいか		10
○お話のある教室		2・3
○わたしの学校経営		1 1
○学校給食について		2・3
○お母さんの作文		2・3